

【第1分科会】 学 校 経 営

学校評価と教職員人事評価を生かした学校教育目標の実現

丹 野 宏 紀 （河北町立谷地西部小学校）

1 はじめに

学校は、常に、運営の改善を進めながら、教育活動の充実と活性化が求められている。学習指導要領には、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善と英語の教科化、プログラミング教育の必修化等の新設・変更が盛り込まれた。一方で、教師の「働き方改革」が叫ばれている昨今でもある。

そのような状況下にあっては、より効率的・効果的で、個々の教師の自主的・自律的な判断を促す取り組みが必要となる。そこで、学校評価と教職員人事評価を連動させたPDCAのサイクルを機能させていくことが、学校教育目標の実現にとって有効であると考えた。

（以下、「教職員人事評価」を「教職員評価」と記す）

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

学校教育目標の実現に向けて、学校評価と教職員評価を連動させていく。そのための学校評価と教職員評価となるように、実践を通して校長の関わり方を明らかにする。

(2) 研究の経過

- ① 第一次（H28・29年度）
実践交流と課題の集約
- ② 第二次（H29・30年度）
実践交流と課題の整理
- ③ 第三次（R1・2年度）
研究のまとめと成果の共有

3 研究の内容

(1) 実効性のある学校評価の工夫

- ① 具体的な指標と基準の設定
- ② 効率的な分析と評価
- ③ 評価項目の一貫性の保持（児童・保護者・教員）
- ④ 発信&次へのアプローチ

(2) 自主的・自律的な教職員評価の工夫

- ① 自己目標設定時の“やりがい”の説明
- ② 自力目標設定のためのシート等の活用
- ③ 学級経営案との一元化の試み

(3) 経営ビジョンと学校評価・教職員評価を有機的に結び付ける工夫の一考察

- ① 学校評価シートと県キャリアアップシートを関連付けての自己目標設定と実践
- ② PDCAサイクルを活用した見直しと、アクションプランの作成。

4 成果と課題

- (1) 1年間の予定を学校カレンダーに取り入れることで効率化と多忙感の軽減を図ることができた。学校評価シートを作成する段階から全教職員が関わることで、教職員評価への繋がりがスムーズにできた。
- (2) 自己目標設定ではゴールの姿や達成基準、手段・方法、達成期間などについて具体的に助言することで、より明確な目標となっていた。教育目標や重点を視野に入れPDCAサイクルを繰り返すことで自己更新力が高まっている。
- (3) 学校評価の結果は、保護者会や学校評議員会、学校運営協議会等の外部へも提示し、課題を共有することで、より学校教育への理解が深まり、協力を得られている。
- (4) 学校評価については、各教職員によって、評価の視点が異なるように、年度初めにコンセプトをもつ必要がある。
- (5) 教職員評価については、学校教育目標や経営方針、重点項目との連動を進めるほどに、校長自身の教育観や力量、研鑽の重要性が増してくると感じる。

5 提 言

- (1) 職務遂行の効率化や多忙化軽減としてのスケジュール管理が重要
- (2) 個々の教員の自主的・自律的判断を促す助言が大切